

社会から見た  
大学の情報公開の在り方について  
～ステークホルダーの視点から考える～

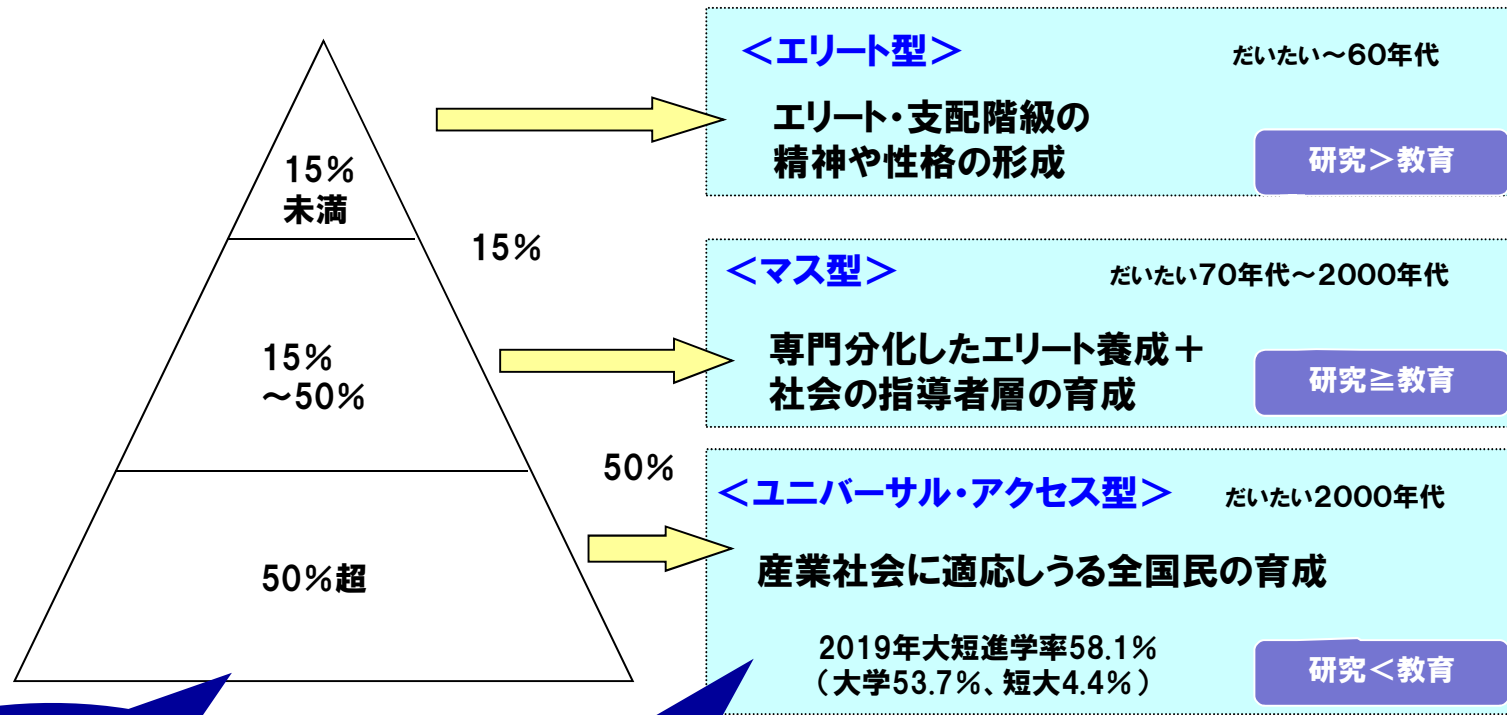


2019年9月24日  
リクルート進学総研所長  
リクルート「カレッジマネジメント」編集長  
小林 浩

昔のイメージのままで見ている！

大学の教職員から  
→大学入学者層が変化しているのでは？

企業の人事から  
→大卒者の質が低下しているのでは？



より多様な人材を育成

日本では、ここが  
ほぼ18歳のみ。  
他国は社会人も

大学の役割が  
変化

Byマーチン・トロウ

(参考)韓国:7割強、アメリカ:7割強、中国4割強

# 社会から見た大学の状況（保護者・人事管理職の時代との比較）



	1990年	2019年	90年比
18歳人口	201万人	118万人	4割減
大学数	507校	786校	約1.5倍
大学(学部)進学率 (高等教育進学率)	24.6% (53.7%)	53.7% (82.6%)	約2倍
学士の学位に付記する専攻分野名称の数※	29種類	700種類以上 ※うち約6割が一大学だけの独自名称	約24倍
私立大学定員割れ	-----	33.0%(短大76.8%) (学生募集停止の大学も)	経営基盤が重要に

※2014.7日本学術会議「学士の学位に付記する専攻分野の名称の在り方について」より

- 学部名から中身がわからない
- 学修成果が見えづらい
- 偏差値が信頼できない
- 情報公開が進まない

疑問

- ・どの学部で何を学んでいるのか
- ・大学卒業時にいったい何が身についているのか
- ・自ら考え、主体的に行動できる人材への枯渇感（指示待ち社員の増加）
- ・グローバル化が進む中で、日本の大学対応できているのか
- ・地方大学は無くなってしまっているのではないのか

高等教育の量的拡大⇒大学教育・研究の質は担保、保証されているのか

# ステークホルダーの視点から

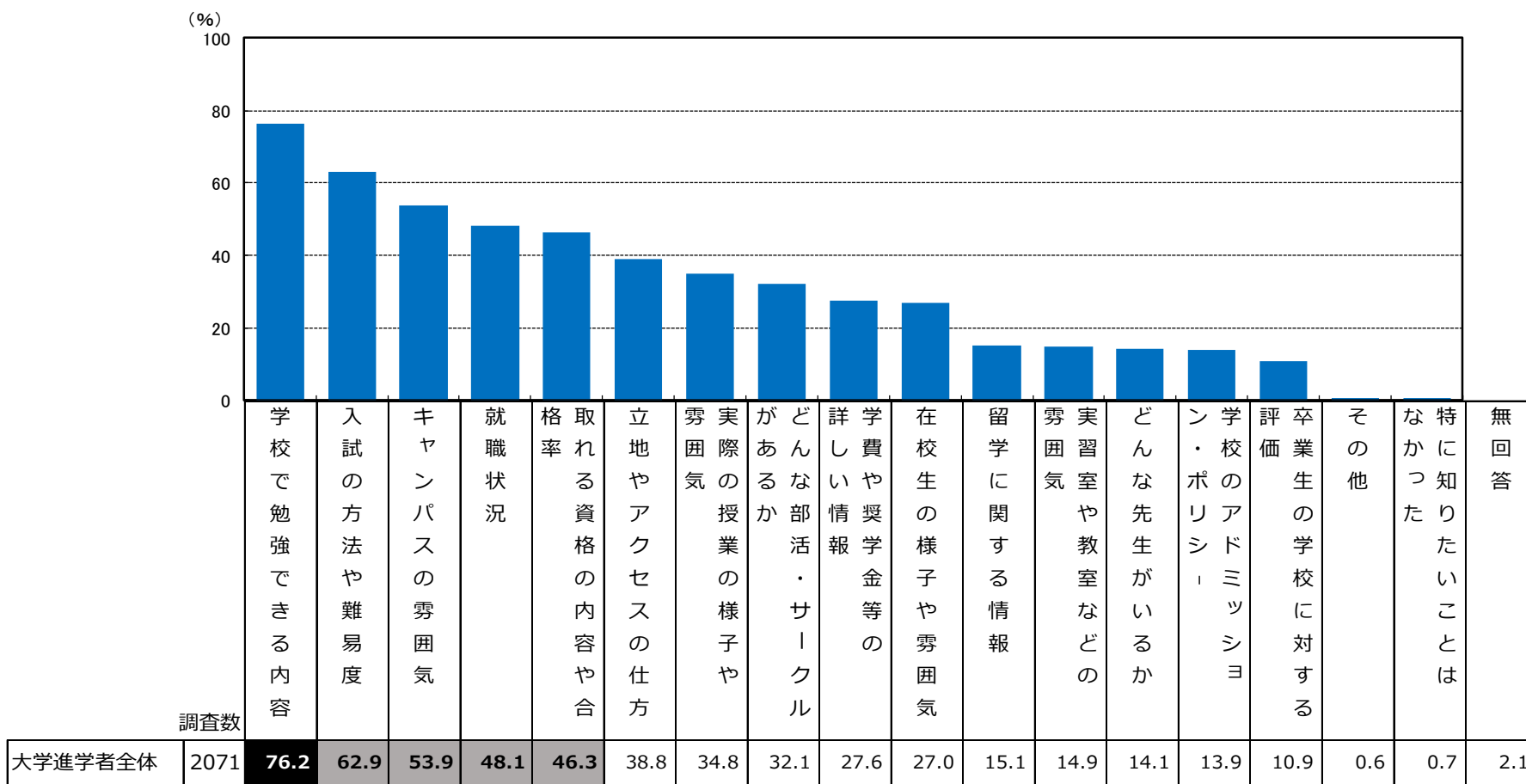
～高校生・保護者・高校教員の知りたいことは何か～

# 【高校生】 大学進学者が進路検討の際、知りたかったこと



トップは「学校で勉強できる内容」  
 続いて「入試方法や難易度」「キャンパスの雰囲気」「就職状況」「取れる資格の内容や合格率」の順

## ■ 【高校生】 進路検討の際、知りたかったこと（複数回答）



100.0 最もスコアの高い項目  
 100.0 2～5番目にスコアの高い項目

※リクルート「高校生の進路選択に関する調査2019」

# 【各学校種進学者】 大学・短大・専門学校進学のリット（進学者/複数回答）



「そこでしか学べない内容がある」は、専門学校のみ  
 →大学・短大で学ぶ内容、教育の個性や特長は意外と伝わっていないのではないか

可能性  
+  
キャンパスライフ

目指す仕事・職種  
+  
早く社会に出られる

特定の業種業界  
+  
そこでしか学べない内容がある

	大学進学者が感じる 大学進学のリット (n=2071)	短大進学者が感じる 短大進学のリット (n=93)	専門学校進学者が感じる 専門学校進学のリット (n=337)
1位	将来の選択肢が広がる 80.2	早く社会に出られる (2年で卒業できる) 77.4	自分のやりたい専門分野の勉強に集中できる 90.5
2位	少なくともどこかに就職できる可能性が高くなる 77.9	自分のやりたい専門分野の勉強に集中できる 76.3	自分の目指す仕事・職種につける 88.4
3位	有名企業や大手企業に就職できる可能性が高くなる 76.6	自分の目指す仕事・職種につける 67.7	特定の業種・業界に就職しやすい 81.9
4位	学生生活が楽しめる 75.2	就職してから活躍できる実力を身につけられる 65.6	そこでしか学べない内容がある 81.3
5位	幅広い教養を身につけられる 74.2	少なくともどこかに就職できる可能性が高くなる 64.5	手に職をつけられる 81.0

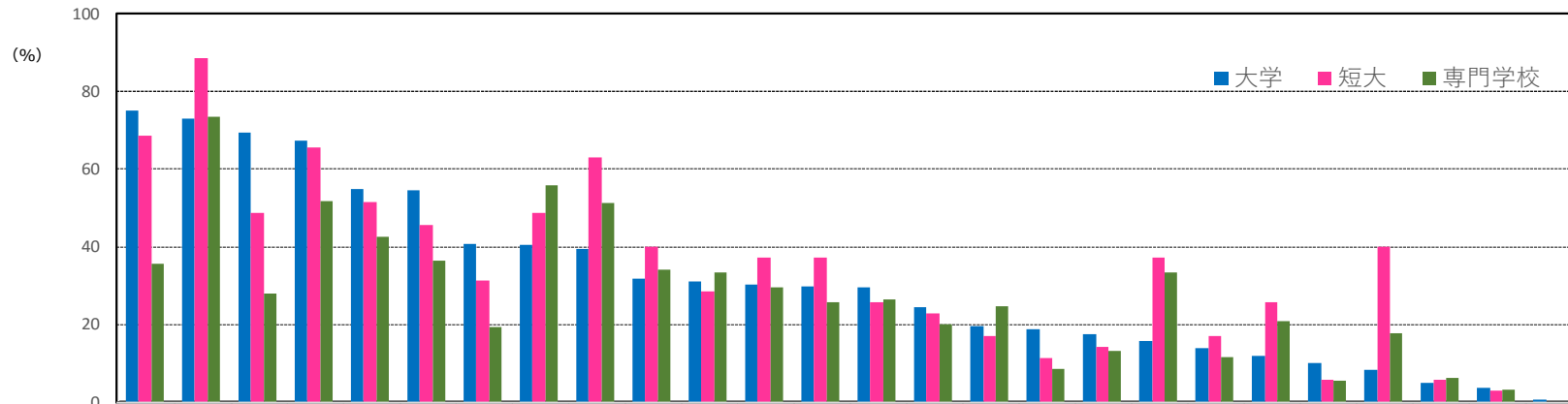
※リクルート「高校生の進路選択に関する調査2019」

# ■【保護者】子供の進路を考える際、重要な進学情報は何か

大学・・・「現在の入試制度の仕組み」「進学費用」「学部・学科の内容」「将来の職業との関係」「就職実績」  
 短大・・・「進学費用」「現在の入試制度の仕組み」「将来の職業との関係」「奨学金の種類と採用条件」  
 専門学校・・・「進学費用」「資格取得実績」「将来の職業との関係」「奨学金の種類と採用条件」

の順

## ■【保護者】重要な進学情報（複数回答）



子どもの希望進路別	調査数	重要な進学情報																										
		現在の入試制度の仕組み	進学費用	学部・学科の内容	将来の職業との関係	就職の状況	入試の内容	難易度	資格取得の状況	奨学金の種類と採用条件	校風・雰囲気	サポート体制	通学の便	周辺環境	施設・設備の充実	カリキュラムの特徴	授業の内容	教授陣の充実	教育方針	進学に利用できる教育機関	子どもの高校の進学実績	最近の高校生の卒業後の進路	進学先の知名度	大学・短大・専門学校の違い	中退の状況	財務状況	その他	無回答
大学	1021	75.1	72.9	69.5	67.3	54.8	54.7	40.9	40.5	39.6	31.8	31.2	30.3	29.9	29.6	24.4	19.5	18.7	17.6	15.8	14.0	12.0	10.0	8.3	5.0	3.6	0.6	0.3
短大	35	68.6	88.6	48.6	65.7	51.4	45.7	31.4	48.6	62.9	40.0	28.6	37.1	37.1	25.7	22.9	17.1	11.4	14.3	37.1	17.1	25.7	5.7	40.0	5.7	2.9	0.0	—
専門学校	129	35.7	73.6	27.9	51.9	42.6	36.4	19.4	55.8	51.2	34.1	33.3	29.5	25.6	26.4	20.2	24.8	8.5	13.2	33.3	11.6	20.9	5.4	17.8	6.2	3.1	0.0	3.9

100.0 最もスコアの高い項目  
 100.0 2～5番目にスコアの高い項目

※リクルート・全国高等学校PTA連合会「高校生と保護者の進路に関する意識調査2017」

# 【高校教員】 大学・短期大学・文部科学省に期待すること

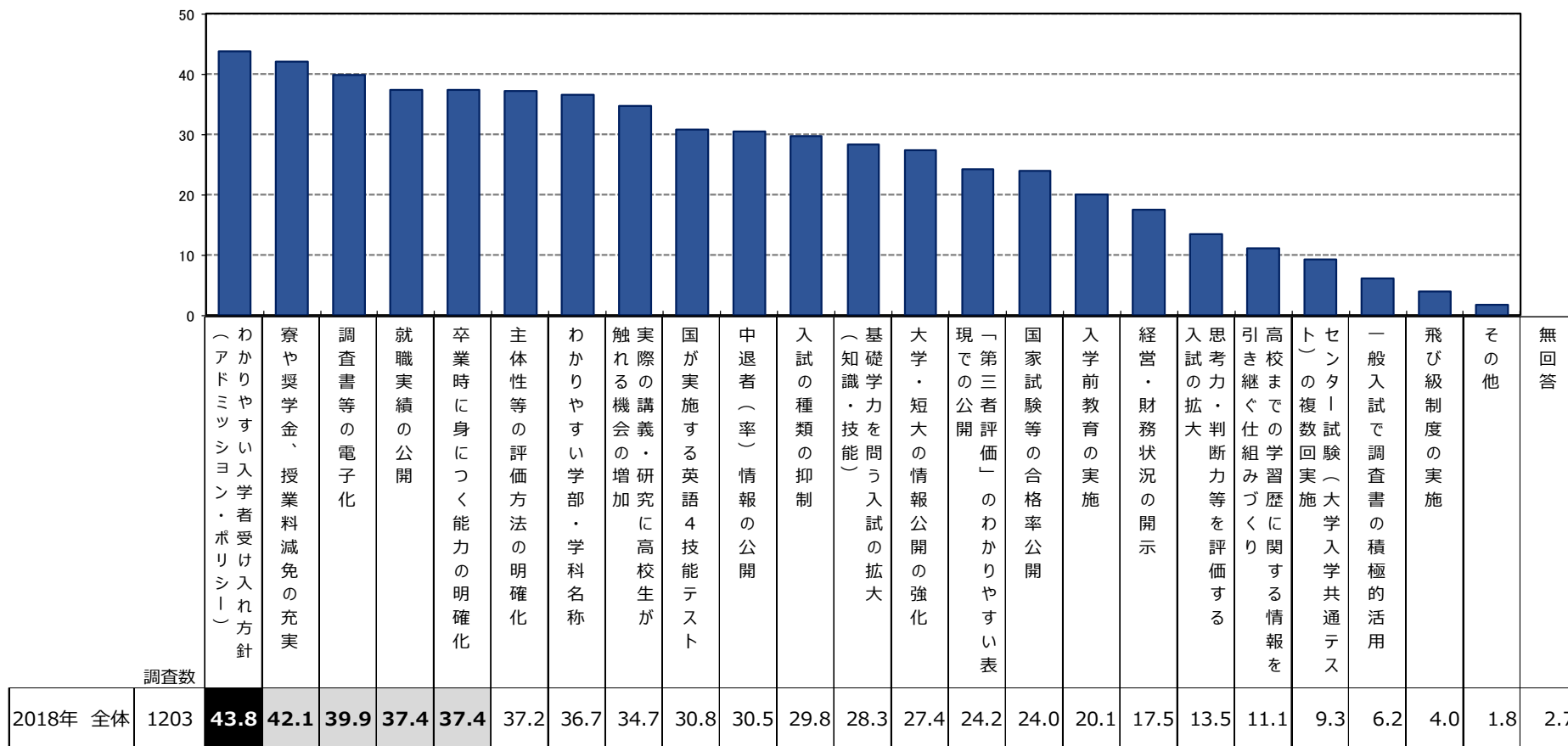


情報公開の観点では、

「わかりやすい入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」 「寮や奨学金、授業料減免の充実」  
 「就職実績の公開」 「卒業時に身につく能力の明確化」 「主体性等の評価方法」 「わかりやすい学部・学科名称」  
 「中退者（率）情報の公開」の順に期待

## ■【高校教員】大学・短期大学・文部科学省に期待すること（全体／複数回答）

以下の中で、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか。（いくつでも○）



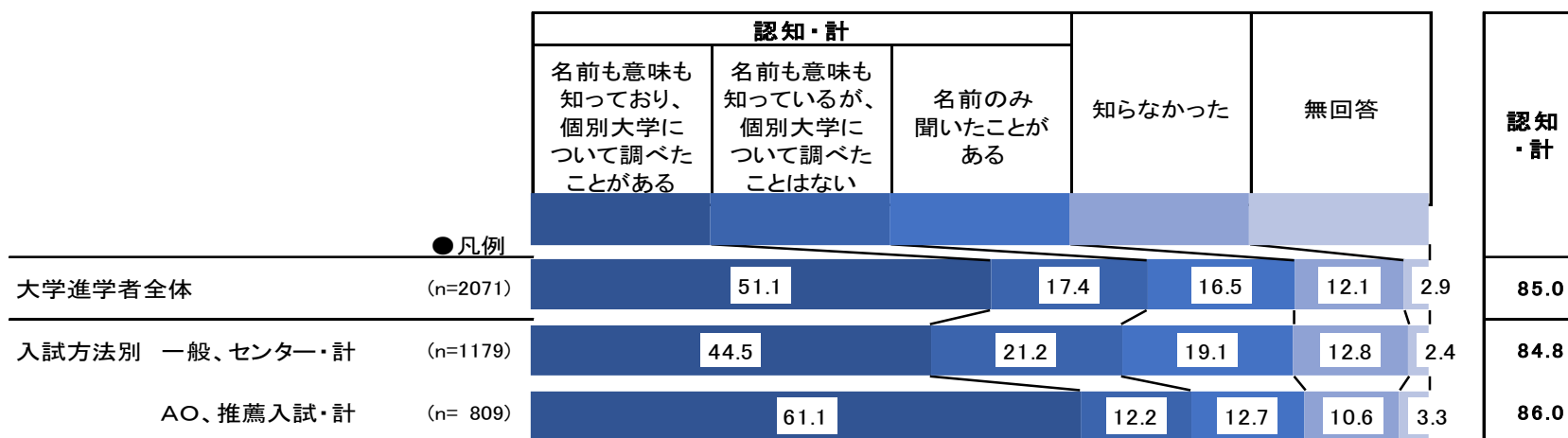
100.0 最もスコアの高い項目  
 100.0 2～5番目にスコアの高い項目

※リクルート「高校教育改革に関する調査2018」



2017年より大学に策定が義務付けられたアドミッション・ポリシーについて  
 高校生の認知度は8割以上。特にAO・推薦の入試区分で入学した学生は、約6割が「個別大学について調べた」  
 高校教員の約6割が「進路指導で活用している」

## ■ 【高校生】 「アドミッション・ポリシー」の認知度（単一回答） (%)



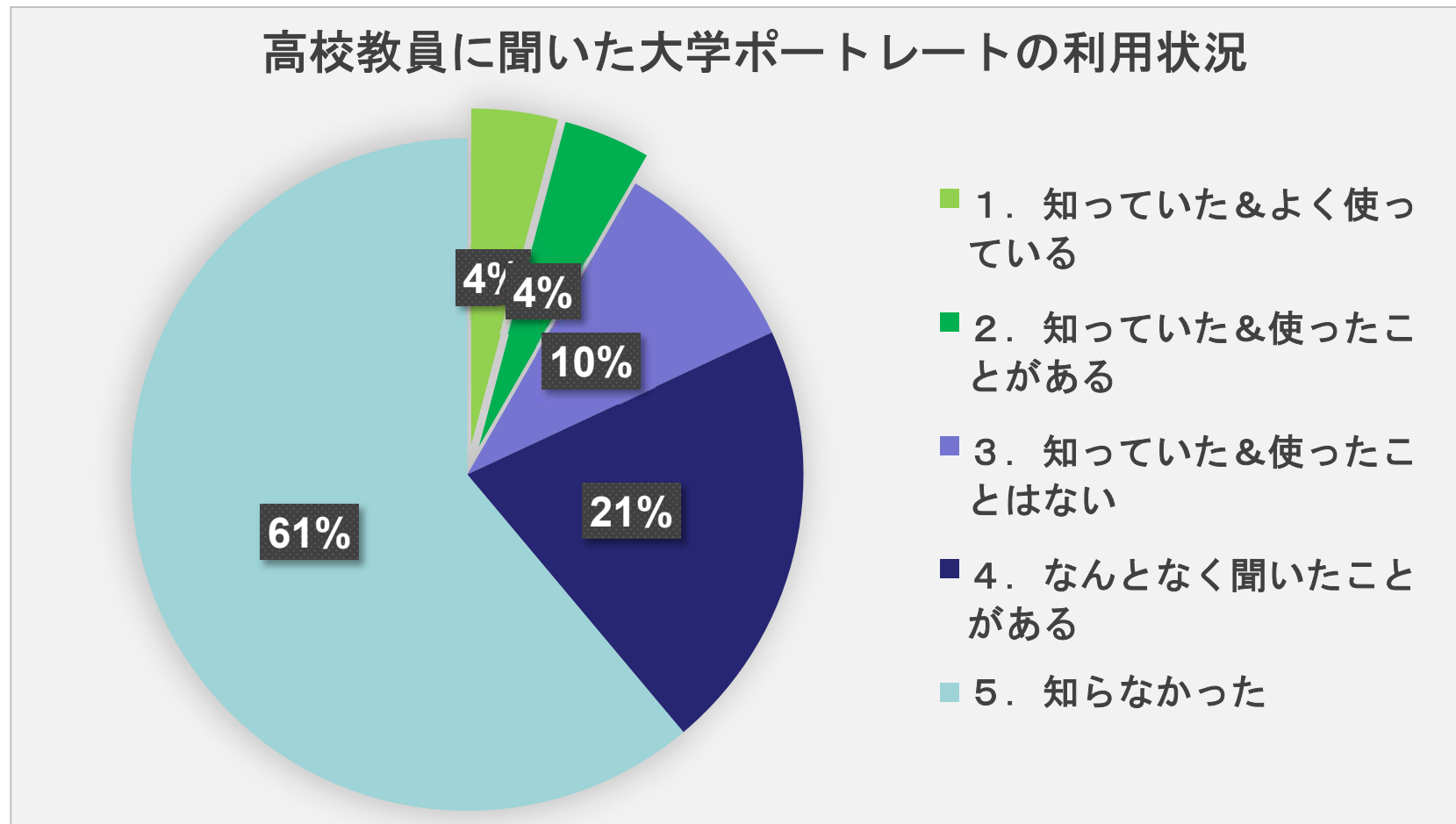
※リクルート「高校生の進路選択に関する調査2019」

## ※参考）高校教員「アドミッション・ポリシー」の進路指導への活用（単一回答） (%)



※リクルート「高校教育改革に関する調査2018」

- 大学ポートレートを使ったことがある高校教員は約1割にとどまる
- 大学ポートレートについて「知らなかった」「なんとなく聞いたことがある」で約8割  
⇒ほとんど知られていないし、使われていない



リクルート「キャリアガイダンス」メールマガジン読者アンケート (n=71) 2016年10月

# ステークホルダーから見た大学の情報公開のポイント



	情報公開が進まない	偏差値が信頼できない	学修成果が見えづらい	学部名から中身がわからない
現状	<p>情報は公開しているが、言葉がわかりづらい</p> <p>欲しい情報にたどり着けない、探せない</p>	<p>偏差値以外の情報を探しているが、大学間比較や経年比較できる情報が少ない</p> <p>大学の学びの特長や個性がわかる情報が少ない</p>	<p>ディプロマポリシーはわかりやすいか</p> <p>資格取得、就職率はあるが、退学率等都合の悪い情報は多くの大学で公開されていない</p>	<p>学部名が多様化しすぎて、名称の検索だけでは目的の学部・学科にたどり着けない</p> <p>アドミッションポリシーは「カレッジ・レディネス」を表しているか</p>

- ◆ 大学目線ではなく、利用者目線で情報を整理し、理解できるような指標・名称を使用する  
⇒学部名称の集約、指標名称の見直し等。その上で、まず認知を高める。
- ◆ 各大学の個性や教育・学びの特長、学修成果がわかるような工夫が必要  
⇒高校では、アドミッション・ポリシーを活用した進路指導が始まっている
- ◆ 他の大学との比較を可能にする  
⇒レーダーチャート等わかりやすい比較表（これがないため、様々な民間ランキングが人気）

大学が説明責任を果たす上での基本が情報公開→「伝える」と「伝わる」は異なる

- ◆ 大学の基盤的な共通の情報（学生数、退学率、就職・資格取得率等）⇒reason whyと共に
- ◆ 各大学の個性がわかる情報（建学の精神、教育や学びの特長、わかりやすい3ポリシー等）
- ◆ 国際的な共通指標や質保証に関する情報等（学修成果、国際認証等）

がきちんと利用者視点で、比較できるような形の情報公開に変えていく必要がある。

その上で、認証評価等にそのまま活用できるようにして、大学が情報公開するメリットを強化

大学と企業の「相互信頼」

**社会**  
(企業) (団体) (地域)

〇〇大学は、こんな人材を育成している！  
という「ならではの価値」の浸透  
(相手に伝わらなければ意味がない)

情報公開、認証評価による  
質保証(説明責任)が重要課題に

ギャップ

学修成果

競争環境が変化し、  
企業が求める人材像も変化。  
自社に合った人材の再考。  
厳選化。

大学

建学の精神

↓  
教育の理念

アドミッション  
ポリシー

カリキュラム  
ポリシー

ディプロマ  
ポリシー

新しい時代に対応できる  
人材の育成を

高大接続の推進

ギャップ

学修成果

高校  
(高校生)

- ・多様な学習活動・学習成果の評価
- ・学習指導要領の見直し
- ・主体的・協働的な学びの推進
- ・学校教員の資質・能力の向上

大学の個性、学部名から  
学ぶ内容がわからない  
学びの特長がわからない

将来の自分の姿  
を描けるか